

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

相談支援センターの利用者の背景に関する分析

研究分担者 若尾 文彦 国立がん研究センターがん対策研究所 事業統括
研究分担者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部

研究要旨

目的：本研究では、がん診療連携拠点病院に受診し診断を受けた患者を対象として、相談支援センターを知る人や利用者の属性を明らかにし、相談支援センターの認知状況と利用状況の違いによる患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）との関連を明らかにすることを目的とした。

方法：平成30年に行われた患者体験調査の回答者7169名を対象に分析を行った。相談支援センターを知っているか否か、利用したか否かと、相談支援センターを知っていて利用しなかった者の理由に「相談したいことがなかった」か否かを取り上げ検討を行った。患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）は、治療開始前および治療中の体験と、納得・主観的な医療、医療機関連携、相談支援に関する評価に関する17項目について検討を行った。

結果および考察：年齢が相対的に若い層で、病状や治療の状況が重いと考えられる人で、より相談支援センターを知っており、利用していた。すなわち、情報や支援をより必要とするであろうと考えられる背景の患者らが、実際に情報や支援にたどり着けていた傾向が見られた。また患者が相談支援センターを知らずに利用しなかった場合に、患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）の得点は有意に低く、「相談支援センターを知っていること」が、医療の質の評価の観点からもまず重要であることが示された。さらに相談支援センターを知っている場合においても、「明確に相談したいことがない場合以外」には、周囲の医療者や支援者らの対応や対応できるところへつなげる仕組みが重要であること示唆された。

結論：今後も相談支援センターを知っているという体験を増やしていくこと、また相談支援センターの利用に関わる背景の分析を進め、相談支援センターの周知や利用につなげる策を講じていく必要がある。

A. 研究目的

がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院とする）に設置されているがん相談支援センター（以下、相談支援センターとする）は、2005年に設置されて以降、体制や機能の充実に向けた取り組みが進められている。しかし、実際にどのような患者が相談支援センターを利用し、利用した者が医療機関でどのような体験をしているのかはわかっていない。そこで、本研究では、拠点病院に受診し診断を受けた患者を対象として平成30年（2018年）に実施された患者体験調査を用いて、相談支援センターを知る人（認知状況）や利用者はどのような人たちであるのか（利用状況）を明らかにし、また相談支援センターの認知状況と利用状況の違いによる患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）との関連を明らかにすることを目的とした。

なお、相談支援センターは、受診している病院に限らず利用できること、また患者でなくても利用できることなど、通常の診療とは異なるより広い利用者を想定している。したがって、本検討は、相談支

援センターの想定される主な対象ではあるが、すべての対象を網羅している訳ではない。

B. 研究方法

がん診療連携拠点病院を受診した患者を対象に平成30年に行われた患者体験調査の回答者7169名を対象に分析を行った。（患者体験調査のサンプリング等の詳細については、「患者体験調査報告書 平成30年度調査」厚生労働省委託事業 国立がん研究センターがん対策情報センター令和2年10月を参照。）

相談支援センターの認知状況および利用状況については、相談支援センターを知っているか、利用したことがあるかの2つの設問より把握した。さらに、相談支援センターの認知と利用状況について、3つの選択肢（「知らなかった/利用しなかった」「知っていた/利用しなかった」「知っていた/利用した」）による検討も行った。

相談支援センターを知っていて利用しなかった対象者については、さらに利用しなかった者に対して尋ねた「利用しなかった理由」で、「相談したいことがなかった」を取り上げ、「相談したいことがな

かった」と回答した者と、それ以外の者を相談したいことがあった者（＝明確に相談したいことがなかったと言えない者）として扱い分析に用いた。

また、患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）については、今回の患者体験調査で測定された治療開始前および治療中の体験と、納得・主観的な医療、医療機関連携、相談支援に関する評価に関する以下の17項目について検討を行った。

<治療開始前の体験>

1. がんの治療を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた(問15-1)

<治療中の体験>

2. 治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた(問20-1)

3. 治療による副作用の予測などに関して見通しを持てた(問20-2)

4. がん治療を進める上で、医療スタッフと十分な対話ができ(問20-3)

5. 医療スタッフは、あなたの言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれていた(問20-4)

6. 治療におけるあなたの希望は尊重された(問20-5)

7. つらい症状にはすみやかに対応してくれた(問20-6)

8. あなたのことにに関して治療に関係する医療スタッフ間で十分に情報が共有されていた(問20-7)

9. 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた(問20-9)

10. 最初の治療を受けて退院するまでに、生活上の留意点について医療スタッフから十分な情報を得ることができた(問20-11)

<納得・主観的な医療>

11. 診断～治療開始までの状況を総合的に振り返って納得いく治療を選択することができた(問15-2)

12. あなたのがんにに関して専門的な医療を受けられた(問20-8)

13. これまで受けた治療に納得している(問20-10)

14. 今回のがんの診断・治療全般の総合評価（10点満点）(問23)

<医療機関連携>

15. 紹介先の医療機関を支障なく受診できた(問20-12)

16. 希望通りの医療機関に転院することができた(問20-13)

<相談支援>

17. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある(問30-2)

対象者の属性は、相談支援センターの利用に関わりがあると考えられる、性別、年代、治療の有無、受けた治療の種類、現在の治療状況、がんの病期（自己申告による）、入院および転院の有無について把

握した。対象者の背景属性を表1に示した。

分析は、相談支援センターの認知および利用状況別の対象者の背景との関連について検討を行った。また、患者の診療やサービスに対する評価の得点との関連については、性別、年齢、治療の種類、現在の治療の状況、病期を調整変数として用いて、最小二乗平均の算出を行った。

なお、本分析は、調査設計をもとに母集団分布を代表する重み付けを行う前の予備的検討として実施した。

（倫理面への配慮）

本研究で扱うデータについては、国立がん研究センター倫理審査委員会において審査され、承認された患者体験調査（成人、小児）の研究計画に基づき行っている。

C. 研究結果

相談支援センターの認知および利用状況

相談支援センターを知っている者は、4651名（64.9%）で、そのうち相談支援センターを利用した者は、695名（14.9%）であった。また相談支援センターを知っていて利用しなかった者は、無回答等の不明を除く3906名（84.0%）と高い割合となっていた。

1. 相談支援センターの認知状況、利用状況、相談の有無と対象者の属性との関連（表2）

相談支援センターの認知状況別にみると、相談支援センターを知っている者は、女性で多く、年代は50代、60代で多くなっていた。また治療をした、受けた治療の種類が多い、治療中で、病期が高い、入院ありの者で有意に高くなっていた。転院の有無は関連がみられなかった。

相談支援センターの利用状況別にみると、相談支援センターを利用した者は、20～50代と若年層で多く、治療あり、治療の種類が多い、治療中および治療していない者、病期が高い、入院および転院経験のある者で有意に多くなっていた。

相談の有無別では、相談したいことがあった（と想定される）者は、男性、60-80代の高齢層、入院経験のない者で有意に多くなっていた。治療の種類、現在の治療、病期については回答分布による有意な差は見られたものの、一貫した傾向は見られなかった。

2. 相談支援センターの認知状況、利用状況、相談の有無と患者の診療やサービスに対する評価（医療の質）との関連（表3）

今回の患者体験調査で検討を行った17項目との関連については、「医療機関連携」の15. 紹介先の医療機関を支障なく受診できた、16. 希望通りの医療機関に転院することができたの2項目を除く15項目で、相談支援センターを知っている場合に、患者の

診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）の得点が有意に高くなっていた。

相談支援センターの利用の有無では、利用した場合に、9. 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた、17. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある、で有意に得点が高く、1. がんの治療を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた、11. 診断～治療開始までの状況を総合的に振り返って納得いく治療を選択することができた、14. 今回のがんの診断・治療全般の総合評価で、利用しなかった場合に有意に得点が高いという結果であった。

相談支援センターの認知状況と利用状況別に3項目に集約して得点分布を比較したところ、同様に15. 16. を除く15項目全てで有意な得点の差がみられ、相談支援センターを知らなくて利用しなかった者は、他の場合（知っていて利用しなかった・利用した）と比べて有意に得点が低くなっていた。また知っていて利用した場合に、5. 医療スタッフは、あなたの言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれていた、7. つらい症状にはすみやかに対応してくれた、8. あなたのことにに関して治療に関係する医療スタッフ間で十分に情報が共有されていた、9. 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた、10. 最初の治療を受けて退院するまでに、生活上の留意点について医療スタッフから十分な情報を得ることができた、17. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる、の6項目の回答で、有意に得点が高いという結果であった。

相談支援センターを知っていて利用しなかった人について、さらに相談したいことがあったか否かの場合別の検討では、17項目すべてで、相談したいことがなかった者は、相談したいことがあった（と想定される）者に比べて有意に得点が高かった。

D. 考察

本研究では、相談支援センターの認知状況や利用状況を明らかにし、また相談支援センターの認知状況と利用状況の違いによる患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）との関連について検討を行った。その結果、年齢が相対的に若い層で、病状や治療の状況が重いと考えられる人で、より相談支援センターを知っており、利用していた。すなわち、情報や支援をより必要とするであろうと考えられる背景の患者らが、実際に情報や支援にたどり着けていた傾向が見られた。ここに描き出された患者らの背景として、がんの病状や治療の状況が比較的重く、医療に関わる時間が相対的に長いことが考えられる。また患者本人が自ら相談支援センターやその他の支援情報を積極的に探したり、家族や医療従事者らから提供されたりという機会は多かったのではないかと推察される。現在、相談支援センターの認知度の低さががん対策上の課題としてあげ

られているが、医療提供者側に加えて患者が情報を取りに行きやすい仕組みづくりや具体的に支援内容をイメージしやすい体制も引き続き重要であると考えられる。

患者の診療やサービスに対する評価（医療の質）との関連では、相談支援センターを知らずに利用しなかった人が、医療機関連携の項目を除く全てにおいて得点は低く、医療の質の評価が低いという結果であった。また知っていて利用した場合に得点が高くなっていた6項目は、相談支援センターの相談員が対応する役割や機能ともほぼ一致しており、関連がみられたことは、納得のいく結果であると言える。これらの結果から、相談支援センターをすべての人が利用する必要はないにせよ、少なくとも患者が“知っている状態”であることは、医療の質の評価の観点からも重要であることが示唆される。今回の調査結果からは、相談支援センターの機能が明確に利用者に意識されて回答されているかは不明であるが、「相談支援センターを知っていること」は、その他の診療上の体験はより良く、医療の質の評価の高さとも連動していること、すなわち、「相談支援センターを知っていること」が、診療上の良好な体験や医療の質の高さの一つの指標になっているとも考えられる。

また相談支援センターを知っていて利用しなかった場合に、明確に“相談したいことがなかった”と言える状態でない場合には、医療の質に関する得点は、今回検討した17項目全てで低くなっていた。今後、これらの対象者が相談支援センターを利用しなかった理由を明らかにしていくことが重要である。また今回の結果から、「相談支援センターを知っていること」に加えて、「明確に相談したいことがない場合以外」には、何らかの不安や相談したいことなどがあると考える周囲の医療者や支援者らが対応すること、対応できるところに結びつけていくことが重要であると考えられた。

E. 結論

本研究では、相談支援センターを知る人、利用する人の特徴を明らかにし、相談支援センターの認知状況や利用状況の違いによる患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）との関連を明らかにすることを目的に検討を行った。その結果、相談支援センターを知る人、利用する人の特徴が描き出された。また患者が「相談支援センターを知っていること」が患者の診療上の体験や医療サービスに対する評価（医療の質）の点からも、まず重要であることが示された。さらに相談支援センターを知っている場合においても、「明確に相談したいことがない場合以外」には、周囲の医療者や支援者らの対応や対応できるところへつなげる仕組みが重要であることが示唆された。

今後も相談支援センターを知っているという体験

を増やしていくことが重要である。また相談支援センターの利用に関わる背景の分析を進め、相談支援センターの周知や利用につなげる策を講じていく必要がある。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1. 対象者の属性(n=7169)

	n	%
性別		
男性	3731	52.0
女性	3414	47.6
不明	24	0.3
年代		
20代・30代	511	7.1
40代	564	7.9
50代	661	9.2
60代	1526	21.3
70代	2047	28.6
80代以上	1207	16.8
不明	653	9.1
治療		
治療なし	166	2.3
治療あり	6873	95.9
不明	130	1.8
受けた治療の種類		
手術または内視鏡治療のみ	2309	32.2
手術または内視鏡治療+1種類	1955	27.3
手術または内視鏡治療+2種類以上	1108	15.5
手術・内視鏡なし+1種類	917	12.8
手術・内視鏡なし+2種類以上	502	7.0
不明	378	5.3
現在の治療状況		
治療終了 通院終了	549	7.7
治療終了 経過観察で通院	3952	55.1
治療中	1429	19.9
治療していない	65	0.9
その他	957	13.3
不明	217	3.0
がんの病期		
0期	381	5.3
1期	1960	27.3
2期	1181	16.5
3期	899	12.5
4期	1099	15.3
わからない	1339	18.7
不明	310	4.3
入院の有無		
ない	1693	23.6
ある	4863	67.8
不明	613	8.6
がん治療が始まってからの転院の有無		
ない	5442	75.9
ある	1096	15.3
不明	631	8.8
相談支援センターの認知		
知っている	4651	64.9
知らない	2240	31.2
不明	278	3.9
相談支援センターの利用		
利用した	695	14.9
利用しなかった	3906	84.0
不明	50	1.1
相談支援センターの認知と利用状況		
知らなかった/利用しなかった	2240	48.2
知っていた/利用しなかった	3906	84.0
知っていた/利用した	695	14.9
不明	328	7.1
相談支援センターを認知し未利用の者の相談したいことの有無 ¹⁾		
相談したいことはなかった	1055	22.7
相談したいことがあった	2329	50.1
理由不明	522	11.2

注1) 相談支援センターを「知っている」と回答し、「利用しなかった」人について、相談しなかった理由に「相談したいことはなかった」と回答した者とそれ以外の者(「相談したいことがあった」として扱っている)

表2. がん相談支援センターの認知、利用、相談の有無別の対象者の属性

性別	相談支援センターの認知状況 (n=7196)						相談支援センターを「知っている」人 (n=4651)						相談支援センターを「知っている」人 (n=3906)						相談支援センターを「知っている」人で「利用しなかった」人 (n=3906)					
	知っている (n=4651)			知らない (n=2240)			利用した (n=695)			利用しなかった (n=3906)			知らなかった (利用しなかった) (n=2240)			知っていた・利用しなかった (n=3906)			相談したいと思った (n=1055)			相談したくないと思った (n=2329)		
	n	%	p /	n	%	p /	n	%	p /	n	%	p /	n	%	p /	n	%	p /	n	%	p /	n	%	p /
男性	2339	50.3	<0.0001	1250	55.8	<0.0001	328	47.2	1988	50.9	328	47.2	1250	55.8	1988	50.9	328	47.2	480	45.5	1248	53.6	<0.0001	
女性	2294	49.3		984	43.9		363	52.2	1904	48.7	363	52.2	984	43.9	1904	48.7	363	52.2	570	54.0	1074	46.1		
不明	18	0.4		6	0.3		4	0.6	14	0.4	4	0.6	6	0.3	14	0.4	4	0.6	5	0.5	7	0.3		
年代																								
20代・30代	334	7.2	<0.0001	156	7.0	<0.0001	67	9.6	265	6.8	67	9.6	156	7.0	265	6.8	67	9.6	98	9.3	134	5.8	<0.0001	
40代	393	8.4		161	7.2		87	12.5	304	7.8	87	12.5	161	7.2	304	7.8	87	12.5	117	11.1	163	7.0		
50代	489	10.5		160	7.1		96	13.8	391	10.0	96	13.8	160	7.1	391	10.0	96	13.8	125	11.8	233	10.0		
60代	1035	22.3		457	20.4		151	21.7	872	22.3	151	21.7	457	20.4	872	22.3	151	21.7	214	20.3	565	24.3		
70代	1324	28.5		628	28.0		156	22.4	1152	29.5	156	22.4	628	28.0	1152	29.5	156	22.4	272	25.8	707	30.4		
80代以上	651	14.0		493	22.0		81	11.7	562	14.4	81	11.7	493	22.0	562	14.4	81	11.7	125	11.8	342	14.7		
不明	425	9.1		185	8.3		57	8.2	360	9.2	57	8.2	185	8.3	360	9.2	57	8.2	104	9.9	185	7.9		
治療																								
治療なし	85	1.8	0.0007	70	3.1	0.0073	21	3.0	61	1.6	21	3.0	70	3.1	61	1.6	21	3.0	12	1.1	36	1.5	0.3629	
治療あり	4536	97.5		2160	96.4		669	96.3	3820	97.8	669	96.3	2160	96.4	3820	97.8	669	96.3	1031	97.7	2282	98.0		
不明	30	0.6		10	0.4		5	0.7	25	0.6	5	0.7	10	0.4	25	0.6	5	0.7	12	1.1	11	0.5		
受けた治療の種類																								
手術または内視鏡治療のみ	1375	29.6	<0.0001	877	39.2	<0.0001	125	18.0	1232	31.5	125	18.0	877	39.2	1232	31.5	125	18.0	289	27.4	779	33.4	<0.0001	
手術または内視鏡治療+1種類	1318	28.3		584	26.1		169	24.3	1136	29.1	169	24.3	584	26.1	1136	29.1	169	24.3	301	28.5	686	29.5		
手術または内視鏡治療+2種類以上	843	18.1		244	10.9		187	26.9	654	16.7	187	26.9	244	10.9	654	16.7	187	26.9	231	21.9	345	14.8		
手術・内視鏡なし+1種類	585	12.6		299	13.3		97	14.0	480	12.3	97	14.0	299	13.3	480	12.3	97	14.0	112	10.6	295	12.7		
手術・内視鏡なし+2種類以上	365	7.8		128	5.7		82	11.8	278	7.1	82	11.8	128	5.7	278	7.1	82	11.8	92	8.7	156	6.7		
不明	165	3.5		108	4.8		35	5.0	126	3.2	35	5.0	108	4.8	126	3.2	35	5.0	30	2.8	29	1.2		
現在の治療状況																								
治療終了	317	6.8	<0.0001	208	9.3	<0.0001	27	3.9	285	7.3	27	3.9	208	9.3	285	7.3	27	3.9	77	7.3	177	7.6	<0.0001	
治療終了 経過観察で通院	2590	55.7		1293	57.7		312	44.9	2253	57.7	312	44.9	2590	55.7	2253	57.7	312	44.9	536	50.8	1428	61.3		
治療中	1058	22.7		337	15.0		175	25.2	872	22.3	175	25.2	1058	22.7	872	22.3	175	25.2	284	26.9	466	20.0		
治療していない	35	0.8		26	1.2		3	0.4	31	0.8	3	0.4	35	0.8	31	0.8	3	0.4	2	0.2	20	0.9		
その他	571	12.3		333	14.9		167	24.0	398	10.2	167	24.0	571	12.3	398	10.2	167	24.0	140	13.3	198	8.5		
不明	80	1.7		43	1.9		11	1.6	67	1.7	11	1.6	80	1.7	67	1.7	11	1.6	16	1.5	40	1.7		
がんの病期																								
0期	211	4.5	<0.0001	154	6.9	<0.0001	14	2.0	190	4.9	14	2.0	154	6.9	190	4.9	14	2.0	35	3.3	125	5.4	<0.0001	
1期	1291	27.8		627	28.0		160	23.0	1121	28.7	160	23.0	1291	27.8	1121	28.7	160	23.0	270	25.6	697	29.9		
2期	855	18.4		308	13.8		124	17.8	724	18.5	124	17.8	855	18.4	724	18.5	124	17.8	217	20.6	428	18.4		
3期	667	14.3		212	9.5		113	16.3	551	14.1	113	16.3	667	14.3	551	14.1	113	16.3	168	15.9	318	13.7		
4期	765	16.4		299	13.3		180	25.9	579	14.8	180	25.9	765	16.4	579	14.8	180	25.9	190	18.0	315	13.5		
わからない	745	16.0		557	24.9		84	12.1	649	16.6	84	12.1	745	16.0	649	16.6	84	12.1	149	14.1	399	17.1		
不明	117	2.5		83	3.7		20	2.9	92	2.4	20	2.9	117	2.5	92	2.4	20	2.9	26	2.5	47	2.0		
入院の有無																								
ない	1074	23.1	0.0008	581	25.9	<0.0001	115	16.5	946	24.2	115	16.5	1074	23.1	946	24.2	115	16.5	217	20.6	589	25.3	0.0002	
ある	3319	71.4		1468	65.5		545	78.4	2744	70.3	545	78.4	3319	71.4	2744	70.3	545	78.4	792	75.1	1627	69.9		
不明	258	5.5		191	8.5		35	5.0	216	5.5	35	5.0	258	5.5	216	5.5	35	5.0	46	4.4	113	4.9		
がん治療が始まってからの転院の有無																								
ない	3657	78.6	0.4045	1692	75.5	0.0001	511	73.5	3111	79.6	511	73.5	3657	78.6	3111	79.6	511	73.5	1692	79.4	1888	81.1	0.1192	
ある	721	15.5		354	15.8		141	20.3	571	14.6	141	20.3	721	15.5	571	14.6	141	20.3	168	15.9	322	13.8		
不明	273	5.9		194	8.7		43	6.2	224	5.7	43	6.2	273	5.9	224	5.7	43	6.2	49	4.6	119	5.1		

注1) X²検定

表3. 相談支援センターの認知および利用状況別の患者体験の回答分布

	相談支援センターの認知状況 (n=7196)				相談支援センターを「知っている」人 (n=4651)				相談支援センターの認知状況と利用状況(再掲) (n=7196)				相談支援センターを「知っている」人で「利用しなかった」人(n=3906)											
	平均	SD	range	p値	平均	SD	range	p値	利用しなかった (n=3906)		知っている・利用した (n=695)		平均	SD	range	p値								
									平均	p値	平均	p値												
<治療開始前の体験>																								
1 がんの治療を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた(問15-1)	3.84	1.06	(1-5)	<0.001	3.81	1.06	(1-5)	<0.001	3.85	1.06	(1-5)	3.74	0.022	3.69	3.83	3.72	<0.001	3.99	1.06	(1-5)	<0.001	3.54	<0.001	
<治療中の体験>																								
2 治療スケジュールの見直しに関する情報を十分得ることができた(問20-1)	3.91	1.02	(1-5)	0.003	3.86	1.02	(1-5)	0.003	3.88	1.02	(1-5)	3.82	0.186	3.78	3.87	3.81	0.0044	4.06	1.02	(1-5)	0.0044	3.63	<0.001	
3 治療による副作用の予測などに関し、医師と通話を保持できた(問20-3)	3.59	1.12	(1-5)	<0.001	3.66	1.12	(1-5)	<0.001	3.69	1.12	(1-5)	3.64	0.347	3.51	3.67	3.62	<0.001	3.84	1.12	(1-5)	<0.001	3.39	<0.001	
4 がん治療を進める上で、医療スタッフと十分な対話があった(問20-3)	3.77	1.09	(1-5)	<0.001	3.72	1.09	(1-5)	<0.001	3.75	1.09	(1-5)	3.71	0.445	3.59	3.73	3.70	<0.001	3.94	1.09	(1-5)	<0.001	3.44	<0.001	
5 医療スタッフは、あなたの言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれた(問20-4)	3.92	1.05	(1-5)	<0.001	3.94	1.05	(1-5)	<0.001	3.95	1.05	(1-5)	3.97	0.783	3.78	3.93	3.95	<0.001	4.14	1.05	(1-5)	<0.001	3.64	<0.001	
6 治療におけるあなたの希望は尊重された(問20-5)	3.97	1.00	(1-5)	<0.001	3.97	1.00	(1-5)	<0.001	3.99	1.00	(1-5)	3.98	0.756	3.84	3.97	3.96	<0.001	4.16	1.00	(1-5)	<0.001	3.72	<0.001	
7 つらい症状にはすみやかに対応してくれた(問20-6)	4.01	1.02	(1-5)	<0.001	4.00	1.02	(1-5)	<0.001	4.01	1.02	(1-5)	4.01	0.952	3.88	4.00	4.00	0.0007	4.17	1.02	(1-5)	<0.001	3.76	<0.001	
8 あなたのことに際して治療に際して関係する医療スタッフ間で十分に情報が共有されていた(問20-7)	3.81	1.06	(1-5)	<0.001	3.78	1.06	(1-5)	<0.001	3.79	1.06	(1-5)	3.83	0.458	3.65	3.78	3.81	0.0015	3.94	1.06	(1-5)	<0.001	3.54	<0.001	
9 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた(問20-9)	3.29	1.33	(1-5)	<0.001	3.40	1.33	(1-5)	<0.001	3.37	1.33	(1-5)	3.68	<0.001	3.11	3.34	3.65	<0.001	3.52	1.33	(1-5)	<0.001	3.06	<0.001	
10 最初の治療を受けて退院するまでに、生活上の留意点について医療スタッフから十分な情報を得ることができた(問20-10)	3.91	1.03	(1-5)	<0.001	3.94	1.03	(1-5)	<0.001	3.94	1.03	(1-5)	3.99	0.344	3.79	3.93	3.98	<0.001	4.12	1.03	(1-5)	<0.001	3.68	<0.001	
<納得・主観的な医療>																								
11 診断～治療開始までの状況を総合的に振り返って納得いく治療を選択することができた(問15-2)	4.04	1.04	(1-5)	<0.001	3.97	1.04	(1-5)	<0.001	4.00	1.04	(1-5)	3.86	0.002	3.88	3.99	3.85	<0.001	4.18	1.04	(1-5)	<0.001	3.75	<0.001	
12 あなたのがんに関して専門的な医療を受けられた(問20-8)	4.10	0.97	(1-5)	<0.001	4.09	0.97	(1-5)	<0.001	4.11	0.97	(1-5)	4.09	0.723	3.97	4.09	4.08	<0.001	4.25	0.97	(1-5)	<0.001	3.87	<0.001	
13 これまで受けた治療に納得している(問20-10)	4.08	1.03	(1-5)	0.008	4.01	1.03	(1-5)	0.008	4.02	1.03	(1-5)	3.97	0.243	3.93	4.02	3.97	0.0156	4.21	1.03	(1-5)	<0.001	3.78	<0.001	
14 今回のがんの診断・治療全般の総合評価(10点満点) (問20-9)	7.93	2.05	(0-10)	0.002	7.76	2.05	(0-10)	0.002	7.82	2.05	(0-10)	7.62	0.015	7.60	7.79	7.60	0.0006	8.10	2.05	(0-10)	<0.001	7.29	<0.001	
<医療機関連携>																								
15 紹介先の医療機関を支援なく受診できた(問20-12)	4.24	1.01	(1-5)	0.746	4.33	1.01	(1-5)	0.746	4.40	1.01	(1-5)	4.29	0.3	4.31	4.37	4.24	0.0635	4.54	1.01	(1-5)	0.0635	4.22	0.002	
16 希望通りの医療機関に転院することができた(問20-13)	4.12	1.15	(1-5)	0.315	4.20	1.15	(1-5)	0.315	4.23	1.15	(1-5)	4.28	0.678	4.12	4.21	4.24	0.1894	4.34	1.15	(1-5)	0.1894	4.03	0.008	
<相談支援>																								
17 がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある(問30-2)	3.23	1.16	(1-5)	<0.001	3.34	1.16	(1-5)	<0.001	3.30	1.16	(1-5)	3.50	<0.001	2.77	3.31	3.50	<0.001	3.54	1.16	(1-5)	<0.001	2.86	<0.001	

注1) 性別、年齢、治療の種類、現在の治療の状況、stageは調整済みの最小二乗平均値

注2) a=[「知らなかった(利用しなかった)』と「知っている・利用した』との間、b=[「知らなかった(利用しなかった)』と「知っている・利用した』との間、c=[「知っている・利用しなかった』と「知っている・利用した』との間

注3) *：p<0.05, **：p<0.01, ***：p<0.001